

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	りん酸三ナトリウム(無水)
製品コード	F1-20
整理番号	F1-20-3
供給者の会社名称	林 純薬工業株式会社
住所	大阪府大阪市中央区内平野町3丁目2番12号
担当部門	環境・品質保証部
電話番号	06-6910-7305
FAX番号	06-6910-7300
緊急連絡電話番号	06-6910-7305
URL	http://www.hpc-j.co.jp/

2. 危険有害性の要約

GHS分類	
物理化学的危険性	可燃性固体 区分外 自然発火性固体 区分外 自己発熱性化学品 区分外 水反応可燃性化学品 区分外 酸化性固体 区分外
健康有害性	急性毒性(経口) 区分外 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分1 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分1
環境有害性	水生環境有害性(急性) 区分3 水生環境有害性(長期間) 区分3 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語	危険
危険有害性情報	H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷 H412 長期継続的影響によって水生生物に有害
注意書き	
安全対策	粉じん、ヒュームを吸入しないこと。(P260) 取扱い後はよく手を洗うこと。(P264) 環境への放出を避けること。(P273) 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)
応急措置	飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 (P301+P330+P331) 皮膚又は髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353) 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

(P305+P351+P338)

直ちに医師に連絡すること。(P310)

特別な処置が必要である。(P321)

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。(P363)

保管

施錠して保管すること。(P405)

廃棄

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

化学物質

化学名又は一般名

第三りん酸ナトリウム、オルトリン酸三ナトリウム

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
第三リン酸ソーダ(無水)	97.0%以上	Na ₃ PO ₄	1-497		7601-54-9

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、安楽に待機させ、窮屈な衣服部分を緩めてやる。ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

皮膚に付着した場合

汚染した衣服、靴、靴下を脱がせ遠ざける。接触した身体部位を水で十分洗う。

医師の手当、診断を受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

医師の手当、診断を受けること。

飲み込んだ場合

直ちに多量の水を飲ませる。

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

医師の手当、診断を受けること。

5. 火災時の措置

消火剤

水噴霧, 粉末消火薬剤, 二酸化炭素, 泡消火薬剤, 乾燥砂

使ってはならない消火剤

高圧棒状放水

特有の危険有害性

不燃性であるが、火災時に刺激性もしくは有毒なフェームまたはガスを発生する。

特有の消火方法

周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。

移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。

着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に消火する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外は近づけない。

立ち入る前に、密閉された場所を換気する。

作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な保護具を着用し、風下で作業を行わない。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

本製品は、水汚染物なので土壌汚染、もしくは排水溝及び排水系及び大量の水に流入することを防止する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材 漏出物は、粉塵を発生させないように注意し、できるだけ掃き集めて密閉できる空容器に回収し、安全な場所に移動する。
回収跡は多量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。

長時間または反復の暴露を避ける。

漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にする。

熱を避け、強酸との接触を避ける。

作業後は容器を密栓し、うがい手洗いを十分にする。

安全取扱注意事項

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。

火気注意。

取扱い後はよく手を洗うこと。

粉じん、ヒュームを吸入しないこと。

環境への放出を避けること。

眼、皮膚、衣服との接触を避ける。

保管

安全な保管条件

施錠して保管すること。

直射日光を避け、強酸、強酸化剤から離して、容器は密閉して換気の良い冷暗所に保管する。

安全な容器包装材料

気密容器(ガラス、ポリエチレン)

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
第三リン酸ソーダ(無水)	設定されていない		

設備対策

取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

呼吸器の保護具

防塵マスク、自給式呼吸器(火災時)。

手の保護具

保護手袋

眼の保護具

保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具

保護服、保護長靴、保護前掛け。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状態

固体

形状

結晶又は結晶性粉末

色

白色

臭い

無臭

臭いのしきい(閾)値

データなし

pH

データなし

融点・凝固点

1,340℃

沸点、初留点及び沸騰範囲

情報なし

引火点

引火せず

蒸発速度

情報なし

燃焼又は爆発範囲

データなし

蒸気圧

情報なし

比重(密度)	2.54g/cm ³
溶解度	水に可溶、22% (15℃)。エタノールに不溶。
動粘性率	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	通常の手扱い条件においては安定である。吸湿性がある。
危険有害反応可能性	加熱すると分解し、有毒で腐食性のフューム(りん酸化物など)を生じる。水溶液は強塩基であり、酸と激しく反応し、腐食性を示す。水の存在下で多くの金属を侵す。
避けるべき条件	加熱。酸との接触。
混触危険物質	酸。
危険有害な分解生成物	りん酸化物、ナトリウム酸化物。

11. 有害性情報

急性毒性: 経口	ラットLD ₅₀ 値 >2000mg/kg (OECD TG 401) (IUCLID(2000))に基づき、分類JISによる基準の区分外(国連GHS分類による基準の区分5または区分外に相当)とした。なお、その他にラットLD ₅₀ 値として4.8mg/kg (IUCLID(2000))があるが、分類にはOECDガイドラインに準拠した試験のデータを優先して採用した。
急性毒性: 経皮	ウサギのLD ₅₀ 値として2 mg/kg (IUCLID(2000))が得られているが、このデータのみでは区分を特定できないので分類できない。
急性毒性: 吸入(気体)	GHSの定義による固体である。
急性毒性: 吸入(粉じん、ミスト)	ラットLC ₅₀ 値として ≥ 2.16 mg/L(4時間換算値: 0.54 mg/L) (IUCLID(2000))が得られているが、このデータのみでは区分を特定できないので分類できない。なお、得られたLC ₅₀ 値(2.16mg/L)が飽和蒸気圧濃度(1.82E-07 mg/L)より高いので「粉塵・ミスト」の基準値を適用した。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	水溶液は強いアルカリで腐食性の熱傷をもたらす可能性があるとの記述(HSDB(2009))に加え、0.1%~1%溶液のpHが11.5~11.9である(Merck(14th, 2006))ことに基づき区分1とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	水溶液は強いアルカリで腐食性の熱傷をもたらす可能性があるとの記述(HSDB(2009))に加え、0.1%~1%溶液のpHが11.5~11.9である(Merck(14th, 2006))ことに基づき区分1とした。
発がん性	データなし。なお、本物質と次亜塩素酸ナトリウムを複合体として含む塩素化リン酸ナトリウム(chlorinated trisodium phosphate)をマウスに2年間経口投与した試験において、発がん性の証拠は得られていない(HSDB(2009))。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データ不足。なお、当該物質の毒性は未研究であるが、関連するのはおそらくそのアルカリ度のみであり(PATY(5th, 2001))、急性ばく露により咳や痛みを伴う気道刺激性、重度のばく露では肺水腫を起こす可能性がある(PATY(5th, 2001))と記述されている。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データ不足。なお、当該物質の毒性は未研究であるが、毒性に関連するのはおそらくそのアルカリ度のみであり(PATY(5th, 2001))、慢性的ばく露により口腔の炎症や潰瘍の可能性、および消化器障害を起こす懸念がある(HSDB(2009))と記述されている。

12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)	魚類(カダヤン)での96時間LC ₅₀ = 28.5 mg/L(AQUIRE, 2011)であることから、区分3とした。
水生環境有害性(長期間)	急性毒性区分3であり、急速分解性に関する適切なデータがないことから、区分3とした。
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報	IMOの規定に従う。
UN No.	3262
Proper Shipping Name.	CORROSIVE SOLID, BASIC, INORGANIC, N.O.S.
Class	8
Packing Group	II
Marine Pollutant	Not applicable
Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II ,and the IBC code	Not applicable

航空規制情報 ICAO/IATAの規定に従う。

UN No.	3262
Proper Shipping Name.	CORROSIVE SOLID, BASIC, INORGANIC, N.O.S.
Class	8
Packing Group	II

国内規制

陸上規制情報	該当しない
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	3262
品名	その他の腐食性物質(無機物)(固体)(アルカリ性のもの)
国連分類	8
容器等級	II
海洋汚染物質	非該当
MARPOL 73/78 附属書II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当

航空規制情報 航空法の規定に従う。

国連番号	3262
品名	その他の腐食性物質(無機物)(固体)(アルカリ性のもの)
国連分類	8
等級	II

特別安全対策 運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

緊急時応急措置指針番号 154

15. 適用法令

外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16の項
船舶安全法	腐食性物質(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	腐食性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)
港則法	危険物・腐食性物質(法第21条2、則第12条、昭和54告示547別表二)
水道法	有害物質(法第4条第2項)、水質基準(平15省令101)

16. その他の情報

参考文献	国際化学物質安全性カード(ICSC) 16615の化学商品(化学工業日報社) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 The Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH
その他	当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。

現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。

当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。

当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。

国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。

このSDSは林 純薬工業株式会社の著作物です。

当該物質の日本語によるSDSと他国言語にて翻訳されたSDSが存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。